

新たな「総合計画」策定等に関する県民参加等の概要

新たな「総合計画」について、県民等に対して、県民参加用冊子の配布をはじめとした情報提供を積極的に行うとともに、様々な方法で意見、提案をいただいた。

1 県民参加意見等の総数 1,512 件

区分	骨子	素案	合計
個人	168件	422件	590件
団体	87件	395件	482件
県民意見計	255件	817件	1,072件
市町村等	250件	190件	440件
合計	505件	1,007件	1,512件

2 県民参加等の実施状況

(1) 骨子に対する県民参加等

ア 県民参加

- (ア) 募集期間 平成23年10月14日（金）～ 11月15日（火）
- (イ) 意見の提出方法 郵送、メール、ファクス等
- (ウ) 団体意見聴取 関係団体等（8団体）に出向いて意見交換を実施
- (エ) 対話の広場 県内7地域で、地域の魅力づくりについて意見交換

イ 市町村参加等

- (ア) 文書照会 パブリックコメント期間に併せて全33市町村に意見照会
- (イ) 個別訪問 県内全33市町村を訪問し意見聴取
- (ウ) 市長会・町村会等における意見交換

(2) 素案に対する県民参加等

ア 県民参加

- (ア) 募集期間 平成23年12月16日（金）～ 平成24年1月16日（月）
- (イ) 意見の提出方法 郵送、メール、ファクス等
- (ウ) 団体意見聴取 関係団体等（38団体）に出向いて意見交換を実施

イ 市町村参加等

- (ア) 文書照会 パブリックコメント期間に併せて全33市町村に意見照会
- (イ) 個別訪問 県内全33市町村を訪問し意見聴取
- (ウ) 市長会・町村会等における意見交換

3 主な意見（裏面のとおり）

意見要旨	対応・反映状況
エネルギー政策における「蓄エネ」の普及促進に当たっては、中小企業や大学などにアイデアを募り共同開発するなど、実用的な技術開発に取り組んでほしい。	蓄電技術などに関する中小企業と大学との共同研究開発については、「実施計画」のプロジェクト2「エネルギー関連産業の集積促進」に位置づけて、蓄電技術を含めた再生可能エネルギーに関連する技術開発に取り組んでいきます。
生物多様性保全の視点での緑・自然の保全再生、里山保全、公園、緑地・緑道など計画的な都市の緑化を進めてほしい。	生物多様性保全の視点を踏まえた、みどりの保全、再生、活用については、「実施計画」のプロジェクト21「 <u>神奈川の自然環境の保全と活用</u> 」に位置づけて、取り組んでいきます。また、都市部のみどりの保全・創出については、「実施計画」のプロジェクト21「 <u>神奈川の自然環境の保全と活用</u> 」に「 <u>都市のみどりの保全と活用</u> 」を位置づけて取り組んでいきます。
津波対策について、情報伝達方法を統一化し、関係機関が一体となって県民への普及を進めるとともに、津波避難施設の整備などに取り組んでほしい。	津波警報の伝達訓練や津波避難標識の設置、避難者への情報伝達手段の確立などについては、「実施計画」のプロジェクト3「 <u>津波被害を軽減する対策の強化</u> 」に「 <u>津浪避難情報の提供・伝達</u> 」を位置づけて取り組んでいきます。また、津波避難施設の整備については、同プロジェクトに「 <u>津波避難施設などの整備・確保</u> 」を位置づけ、沿岸市町と連携して取り組んでいきます。
中小企業などへの支援については、成長産業のリーディングカンパニーだけでなく、全体の多くを占める中核的な企業が事業を継続できるよう、成長産業から中小企業へと仕事が流れるような仕組みにしていってほしい。	中小企業の成長産業への参入促進については、「実施計画」の主要施策の小柱2「 <u>中小企業の経営基盤強化と経営安定化</u> 」などに位置づけて、取り組んでいきます。
がんや救急医療などのいのちを守る医療だけではなく、その後のリハビリテーションなど、その人らしく地域で生活できるための医療や福祉も重要である。	安心して地域で生活できるための医療や福祉については、「実施計画」のプロジェクト9「 <u>障害者の地域生活を支えるしくみづくり</u> 」にリハビリテーション医療などを位置づけて取り組んでいきます。
地域の実情に応じた子育て支援に取り組む民間の団体などを支援するとともに、子育て中の親が地域で孤立しないような取組みが重要である。	地域や家庭の中で孤立していたり、子育てに不安を抱えるなど支援を必要とする親への支援については、「実施計画」のプロジェクト13「 <u>子ども・子育て応援社会の推進</u> 」に「 <u>出産・育児を応援する環境づくり</u> 」を位置づけて取り組んでいきます。
子どもたちがフェアプレーの精神を生活に生かせるようなスポーツ振興を進めてほしい。	子どもたちのフェアプレー精神を育むスポーツ振興については、「実施計画」のプロジェクト12「 <u>健康で豊かな人生を築くスポーツ振興</u> 」に「 <u>ライフステージに応じたスポーツ活動</u> 」を位置づけて取り組んでいきます。
団塊の世代の活用によりNPO活動やボランティア活動が盛んになるよう取り組む必要がある。	団塊の世代の活用によるNPO活動の促進については、「実施計画」のプロジェクト19「 <u>NPOの自立的活動と協働の推進</u> 」に「 <u>ボランティア活動の充実に向けた支援</u> 」を位置づけ、「 <u>かながわコミュニティカレッジ</u> 」において団塊の世代をはじめとするNPO活動を支える人材の育成に取り組んでいきます。
県内大学への留学生の受入れや外国籍県民への生活支援の充実などを通じて、海外に神奈川の魅力をアピールし、「神奈川のファン」を増やしていくような取組みを進めてほしい	留学生の支援については、「実施計画」のプロジェクト11「 <u>多文化共生の地域社会づくり</u> 」に「 <u>神奈川でくらし学ぶ留学生への支援</u> 」を位置づけて取り組むとともに、プロジェクト25「 <u>神奈川を世界にアピールする国際戦略</u> 」に「 <u>神奈川の特徴を活かした国際交流の推進</u> 」を位置づけ、留学生や神奈川ゆかりの外国人などをネットワーク化する「 <u>かながわ国際ファンクラブ</u> 」の結成などに取り組んでいきます。
水源に対する理解促進に取り組むとともに、湖や河川などを観光資源としても活用し、魅力を高める取組みを進めてほしい。	水源に対する理解促進については、「実施計画」の主要施策121「 <u>水源環境保全・再生を支える取組みの推進</u> 」を位置づけて、幅広い県民への周知に取り組んでいきます。また、水源地を守る取組みなど、豊かな水を活かし、水の魅力を発信する取組みについては、「実施計画」のプロジェクト20「 <u>『水のさと かながわ』づくり</u> 」に「 <u>水を活かす取組みの推進</u> 」を位置づけて取り組んでいきます。